

10月9日土曜日、八代高校関東地区同窓会総会を開催しました。

当日はあいにくの雨でしたが、八代高女卒の3名をはじめおよそ230名が集まり、再開を喜び話に花が咲きました。

同窓会総会は卒業回の下1けたが同じ数字の10年ごとの学年が当番幹事となり、同窓会役員・学年幹事の助言や応援を受けながら準備します。こうした世代を超えて同窓会を盛り立てるというのが、関東地区同窓会の特徴です。今年度の総会は、1984（昭和59）年3月に卒業した36回生と26回生が当番幹事でした。これまで互いに疎遠だった36回生も今回の幹事役を契機に約20名が結集。さらに、次回への橋渡しも兼ねて37回生の有志の助けも借りました。

熊本からは、お世話になった先生の中から26回生を担当された山田章則先生、中尾京雄先生、36回生を担当された高野茂先生、松永哲雄先生、丁畑佐代先生の5名、来賓として現八高校長の衛藤繁先生、本校同窓会の岡山元紀会長、本村勘治事務局長の3名の計8名にお越しいただきました。

会場はここ数年、東京都港区の東京プリンスホテルでしたが、今回は都心を離れ交通のターミナル・渋谷のセルリアンタワー東急ホテルに移しました。

総会は午後1時開会。当番幹事長の開会宣言で始まり、物故者への黙祷、関東地区同窓会長、本校同窓会長、八高校長のあいさつと進みました。今年度は同窓会の役員改選期にあたるため会計監査報告の後、新役員の承認と紹介がありました。乾杯の後、歓談の時間になると会場外の別室では学年ごとに記念撮影をしました。



第2部はお招きした5名の先生方のスピーチから始まりました。退職後の第2の人生を満喫されている先生、現役として生徒とともに過ごされている先生のお話に笑いや拍手が起こり会場がわきました。



今回のアトラクションは、「やっちろクイズ・グーかパーか?」。昨年好評だった八代や八高にちなんだクイズを受け継ぎました。アトラクションを一方通行的なものではなく参加型にすることで、参加者がひとつになればと企画しました。また、ふるさとを離れて暮らしていると、八代や八高の話題にふれる機会がほとんどありません。クイズと通じてやっちろを思い出してもらおうという意図もありました。グーかパーの二者択一で手を挙げて答えてもらう勝ち抜き戦方式のクイズでしたが、八代・八高についての関心が高いためか正解者が多く、予定時間をオーバーしてしまうほどでした。クイズの賞品でもひとひねり。会で用意するのではなく、同窓会役員や当番幹事に賞品の提供を呼びかけました。その結果、約80点のバラエティーに富んだ品々が集まりました。



今年度と来年度の当番幹事の紹介とあいさつ、校歌の合唱、締めの方歳と続き 3 時間にわたる総会が幕となりました。



同窓会も少子高齢化による社会構造の変化や、人間関係の希薄化などで参加者が減少していく傾向にあります。個人情報保護によって連絡がとれなかったり、景気回復が遅れていたりしていることも同窓会運営の逆風になっています。同窓会は会員からの会費によって成り立っているため、総会参加者の減少は会の存続にかかわる大きな問題です。

そこで今回は、いくつかの対策を試みました。

- ・同窓会に参加しやすいように、学生以外は男女別に一律だった会費を、若年世代に配慮して4区分に設定
- ・30代以下の関心を高めるために、事前に若手だけのミニ同窓会の開催
- ・電子メールや電話を通じて、卒業年次ごとに参加を促す呼びかけ

関東地区同窓会ではこれらの効果を検討し、さらに知恵を絞って、「骨太の同窓会」にする取り組みを続けていきます。

以上